

基盤を考えるなら、また別の解釈も可能であるし、兵庫県北部のセダカには上翅基部に1対の大顆粒をもつ点をはじめ、一部にマヤサンの特徴形質を示す個体が少ないながら出現することも理解できる。一方、兵庫県北西部におけるマヤサンの最近の確認情報はないと思われること、両種がこれらの地域でモザイク的にせよ、同所的あるいは側所的に分布していたとは考えにくいことから、マヤサンの記録が何らかのミスまたは偶然に基づくという考え方も捨て切れない。

いずれにせよ、兵庫県北西部における今後のさらなる詳しい分布調査が必要であろう。

#### 引用文献

- 長谷川道明, 2007. コブヤハズカミキリ族. 大林延夫・新里達也編, 日本産カミキリムシ, pp. 303, 570-576. 東海大学出版会, 秦野.
- Hayashi, M., 1951. Studies on Cerambycidae from Japan and its adjacent regions (1). Ent. Rev. Japan, 5(2): 75-82.
- 草間慶一・高桑正敏, 1984. フトカミキリ亜科 (*Asaperda*, *Rhodopina*, *Exocentrus*, *Sphingothorax*, *Planeacantha*, *Sciades*, *Phloeopsis*, *Boninella* を除く). 日本鞘翅目学会編, 日本産カミキリ大図鑑, pp. 352-368, 374-462, 467-493, 511-549. 講談社, 東京.
- 三宅義一, 1980. コブヤハズカミキリ類の分化と分布. 北九州の昆蟲, 27(2): 61-84, pls. 5-6.
- 中林博之, 2008. コブヤハズカミキリ入門. 高桑正敏の解体虫書, pp. 76-104. 華飲み会, 小田原.
- 大倉幸彦・遊磨正秀, 1974. カミキリムシ科. 奥谷禎一編, 東中国山地自然環境調査報告, pp. 216-222. 兵庫県, 岡山県, 鳥取県.
- 佐藤邦夫, 1996. IRATSUME に採集記録が発表された但馬のカミキリムシ. *Iratsume*, (20): 93-109.
- 高橋 匡, 1976. 豊岡高等学校昆虫標本日録第4報, p. 11. 兵庫県立豊岡高等学校.
- 武田 滋, 1989. コブヤハズカミキリ類の分布 (兵庫県の巻). *Came 虫*, 8(2): 10-12.
- 辻 啓介, 1972. 兵庫県のカミキリ. 月刊むし, (10): 16-22.

(2014年4月30日受領, 2014年8月12日受理)

#### 【短報】オキナワケシデオキノコムシの渡嘉敷島からの採集記録

筆者は2014年3月26日に沖縄県渡嘉敷島で落葉層に生息する菌食性コウチュウ類の調査を行った。渡嘉敷島におけるハネカクシ科デオキノコムシ亜科の従来の記録はほとんどない。本調査にてオキナワケシデオキノコムシ *Scaphisoma conforme okinawaense* Löbl, 1982 を採集できたので記録したい。

1♂, 沖縄県渡嘉敷島久比里原林道, 26. III. 2014, 保科英人採集。

本種は Löbl (1982) によって、沖縄本島与那を基準産地として、台湾産種 *S. conforme conforme* Löbl, 1980 の沖縄産亜種として記載された。沖縄本島では特に珍しい種ではないが、多くの周辺離島からは記録がない。

琉球列島では、*Scaphisoma* 属などのいわゆる小型デオキノコムシ類は立ち枯れや倒木のピーティングよりも落ち葉ふるいの方が一般的に効率よく捕れる。筆者個人の経験談で恐縮だが、かつて奄美大島での1時間程度の土ふるいで100頭を超す *Scaphisoma* 属を採集したことがある。しかし、今回の渡嘉敷島における調査では、本稿で報告するオキナワケシデオキノコムシのほかは、数個体の未同定の *Scaphisoma* 属が捕れたにすぎない。また、同じく菌食性タマキノコムシ科や捕食性のハネカクシ科コケムシ亜科なども捕獲されたのは10頭以下だった。渡嘉敷島の土壌性ハネカクシ上科相は、

同じ沖縄本島周辺の離島である久米島のそれと比較すると貧弱であると推察される。

#### 引用文献

- Löbl, I., 1982. Über Scaphidiidae (Coleoptera) der japanischen Ryukyu-Inseln. Mitteilungen der Schweizerischen entomologischen Gesellschaft, 53: 101-105.

(保科英人 福井大学教育地域科学部)